

(重点テーマ) 自給飼料利用の拡大、飼養規模の拡大・飼養管理の改善

山口県

(その他のテーマ) 飼料用米生産を通じた農地の保全、畜産物の高品質化と生産拡大

肉用鶏

(活用事業) 施設整備事業

現状・課題

- 耕種農家と連携した飼料用米「多収品種」の作付を推進
- 鶏糞堆肥を耕種農家に供給し、肥料コストを低減
- 飼料用米の利用による飼料自給率向上のため、更なる生産拡大が必要
- 安心・安全を訴求した鶏肉や鶏肉加工品の生産により、需要が拡大
- H28年から鶏肉加工品の香港輸出を開始
- 需要の高まりに応え、輸出を軌道に乗せるため、鶏肉や鶏肉加工品の生産拡大が必要

目指す姿

飼料用米の保管・流通コストを低減させ、中長期的な耕畜連携モデルを確立

鶏肉や鶏肉加工品の生産拡大により、国内需要に対応するとともに、海外展開を加速

行動計画

- ① 飼料用米の生産拡大のため、
 - ・ 適正品種の選択や適切な肥培管理に向けて、耕種農家同士による作付圃場の視察検討会を実施
 - ・ 飼料用米保管タンクを整備し、保管・流通コストを低減
- ② 鶏肉や鶏肉加工品の生産拡大のため、
 - ・ 肉用鶏の飼養規模を拡大
 - ・ 鶏肉加工施設の増強により、生産能力を拡大
 - ・ 輸出品目の拡大に取り組み、新たな販路を開拓

畜産クラスター事業を活用し、

- ・ 飼料用米保管タンク(350 t × 2基)を整備
- ・ 鶏舎(2棟、生産羽数16万羽/年)を整備予定
- ・ 鶏肉加工施設を増強予定 (補助額計:193百万円)



期待される効果 (計画ベース)

飼料用米生産量の増加
H26: 392 t → H31: 800 t

肉用鶏生産羽数の拡大
H27: 99万羽 → H32: 119万羽

鶏肉加工品の生産拡大
H27: 850 t → H32: 1,000 t

鶏肉加工品の輸出拡大
H27: 0.1 t → H32: 10 t

収益向上効果 (計画ベース)

耕種農家の収入増
100千円/10a × 60ha増 = **60百万円**

飼料用米保管コストの低減
4千円/t × 800 t = **3.2百万円**

肉用鶏販売額の増加 **136百万円**
(H27:680百万円 → H32:816百万円)

鶏肉加工品販売額の増加 **252百万円**
(H27:1,248百万円 → H32:1,500百万円)

うち輸出分 **13.6百万円**